

# 令和8年度府中の森芸術劇場学校教育プログラム 弦楽器の音色を体験しよう！

児童の皆さんからの質問におこたえします



Q1.

ヴァイオリンとギターは、弦が4本や6本しかないのに、どうしてこんなにたくさんの音を出せるのですか？

弦を押さえる場所を変えると、弦の「振動する部分」の長さが変わるため、音の高さが変わります。1本の弦からもたくさんの音を出すことができます。（奥村）

ヴァイオリンもギターも同時に弾ける数はそれぞれ限られていますが、左手で押さえる場所を変えることでどちらの楽器もいろいろな高さの音を出すことができます。（岡本）

Q2.

ヴァイオリンやギターは、どうやって高い音と低い音を使い分けているのですか？

ギターもヴァイオリンも張っている弦の太さがすべて違います。どちらの楽器も太い弦を弾けば低い音が出て細い弦を弾けば高い音が出ます。（岡本）

左手の指の抑える場所を変える事でも高い音や低い音が出せます。（奥村）

Q3.

同じ弦楽器なのに、ヴァイオリンとギターでは、なぜ音色がこんなに違うのですか？

楽器の形や大きさ、材料、弦の種類、そして音の出し方が違うからです。バイオリンは弓で弦をこすり、ギターは弦をはじくため、それぞれ違った音色になります。（奥村）

楽器の大きさも、構造も、そして弾き方も違うからです。一番顕著なのは弾き方で、ギターは右手で爪弾いて、ヴァイオリンは弓で擦って弾きますよね。（岡本）

Q4.

ヴァイオリンは弓で弾くのに、ギターは指や爪ではじくのはなぜですか？

ヴァイオリンは弓で弦をこすることで、長く音を伸ばしたり、音の強さや表情を細かく変えたりできます。（奥村）

ヴァイオリンは弓で弾くことを前提に発展してきた楽器だからです。指で弾くこともできますが、小さな音しかありません。ギターも指で弾くと一番大きな音が出るように進化してきました。

（岡本）

Q5.

ヴァイオリンの弓は、どうして馬のしっぽの毛でできているのですか？

弓には主に馬のしっぽの毛が使われています。松脂をつけると弓の毛と弦が適度に引っかかるようになり、弓を動かしたときに弦を振動させて音を出すことができます。（奥村）

Q6.

ヴァイオリンの弓を動かしているのに、どうして音が途切れずに続くのですか？

弓を一方向に動かして端まで来たら、反対方向に返します。そのとき、弓を動かす速さや力を調整することで、音が途切れないようにめらかなにつなぐことができます。（奥村）

Q7.

ヴァイオリンは、弓を使わずに指ではじいて音を出すこともできますか？

できますよ。弦を指ではじいて音を出す「ピチカート」という奏法があります。弓で弾いたときとは違う、短くてはっきりした音になります。（奥村）

Q8.

ヴァイオリンを弾くとき、左手と右手はそれぞれ何をしているのですか？

左手は弦を押さえて音の高さを変え、右手は弓を動かして弦を振動させます。それぞれ違う役割を同時に行っています。（奥村）

Q9.

ヴァイオリンには目印がないのに、どうして正しい音の場所を指で押さえられるのですか？

ヴァイオリンの指板には、ギターのようなフレットがありません。そのため、演奏者は音を耳で確かめながら、指の位置を覚えていきます。練習を重ねることで、正しい場所を指で感じ取れるようになります。（奥村）

Q10.

ヴァイオリンのビブラートは、どうやって音を揺らしているのですか？

弦を押さえている左手の指を細かく動かします。すると弦の長さがほんの少し変化し、音の高さが細かく上下するため、音が揺れているように聞こえます。（奥村）

Q11.

どうしてヴァイオリンを弾いているとき、体や首を動かしているのですか？

演奏中に音程や音色を調整するため、無意識に頭を動かし、バランスを取ることがあります。また頭の動きは音楽のリズムやフレーズに合わせた「ノリ」や「表現」の一部としてあらわれるので、指揮者のように身体全体で音楽を感じている証とも言えます。（奥村）

Q12.

どうしてヴァイオリンはあごで支えて、ギターは足にのせて演奏するのですか？

楽器を安定させて、両手を自由に使えるようにするためです。ヴァイオリンはあごや肩で支えることで、片方の手で弦を押さえ、もう片方の手で弓を動かします。（奥村）

それぞれの楽器、人間にとって一番弾きやすいように進化してきた結果、アゴあてをつけたり、足台に足を乗せたりというスタイルになりました。もちろんギターに関しては立って弾いたり、座っていても足を組んで弾いたりする弾き方もあります。（岡本）

Q13.

ギターをたたくと、どうして太鼓のような音が出るのですか？

ギターの胴体は木の板でできた箱のようなものだからです。

（岡本）

Q14.

ギターの真ん中に大きな穴があるのに、ヴァイオリンには丸い穴がないのはなぜですか？

ヴァイオリンには丸い穴はありませんが、fの形をしたf字孔という穴があります。どちらの楽器も穴から音が出ています。（岡本）

Q15.

ギターについていた大きなクリップのようなものは何で、何のために使うのですか？

カポタストという道具で、ギターの音の高さを高くしたい時に使います。（岡本）



Q16.

ギターの弦をはじく場所や、バイオリンの弓を動かす場所を変えると、どうして音色が変わるのですか？

弦をどこで、どのように振動させるかによって、弦の振動の仕方が変わるからです。演奏者は弾く場所や力、速さなどを変えて、明るい音、やわらかい音など、さまざまな音色を作ります。（奥村）

どちらの楽器も弦の真ん中の方で弾くと柔らかい音が、弦の端の方を弾くと鋭くて硬い音が出ます。「倍音」というものが関係しています。（岡本）

Q17.

ヴァイオリンとギターは、どうやってきれいな音や、激しい音、やさしい音などを弾き分けているのですか？

弦を動かす強さや速さ、弾く場所などを変えることで音色や音の大きさを変えています。（奥村）

弦を大きく振動させると大きな音、小さく振動させれば小さな音が出ます。また弦の真ん中の方で弾くと柔らかい音が、弦の端の方を弾くと鋭くて硬い音が出ます。それらを使い分けて音に表情をつけています。（岡本）

Q18.

ヴァイオリンやギターは、何百年も使えるものがあるのはなぜですか？

木などの材料を使って丈夫に作られていることに加え、丁寧に手入れをしたり、壊れたところを修理したりしながら使うことができるからです。特に古いバイオリンには、何百年も大切に受け継がれているものがあります。（奥村）

職人が丁寧に作って、それを使う人が大切に使うからです。楽器だけではなく。建物も、物も、形あるものは全て丁寧に修理しながら使えばとても長く生きることができます。（岡本）